

【セゾン共創日本ファンド】

2025年5月号

セゾン投信 月次運用レポート

長期投資家の皆さまへ

4月の日本株式市場は、0.3%の上昇となり、4月のセゾン共創日本ファンドの基準価額は、前月比1.2の上昇となりました。当ファンドの基準価額には、小売、建設・資材、食品、不動産などが上昇しプラス寄与しましたが、素材・化学、情報通信・サービスその他、運輸・物流が下落しマイナス寄与しました。

当ファンドは企業価値分析に基づいた上で、相場の変動に応じて適宜保有比率の調整を行い、新規銘柄の組み入れも行いました。

4月は、トランプ米政権の関税政策や、米国のスタグフレーション懸念などで大きく下落した一方、懸念の薄らぎや関税をめぐる交渉への期待などで結局上昇するなど、3月に引き続き乱高下した月でした。このように市場のボラティリティが高まっている昨今ですが、当ファンドでは長期的な視座のもと、将来の企業価値の増大に着目して運用を行っております。短期の市場の変動に惑わされることなく、引き続き丁寧にボトムアップリサーチを行い、外部環境ではなく企業固有の成長要因に着目して、より長期的に利益が成長する可能性を秘めた企業に厳選して投資を行って参ります。

ポートフォリオマネージャー 岩下理人



月次運用レポートの開示について

月次運用レポートでの、資産別比率、業種別比率、組入上位10銘柄等のポートフォリオ状況に関する項目の開示については、情報を迅速に開示することにより、受益者の権利が侵害される可能性を考慮し、開示を1ヶ月遅れとさせていただきます。ご了承の程、何卒よろしくお願いいたします。

◆当資料は情報提供を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。◆本書中の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

お申込みにあたっては販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

委託会社 [ファンドの運用の指図を行います。]

セゾン投信株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第349号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会

<https://www.saison-am.co.jp/>

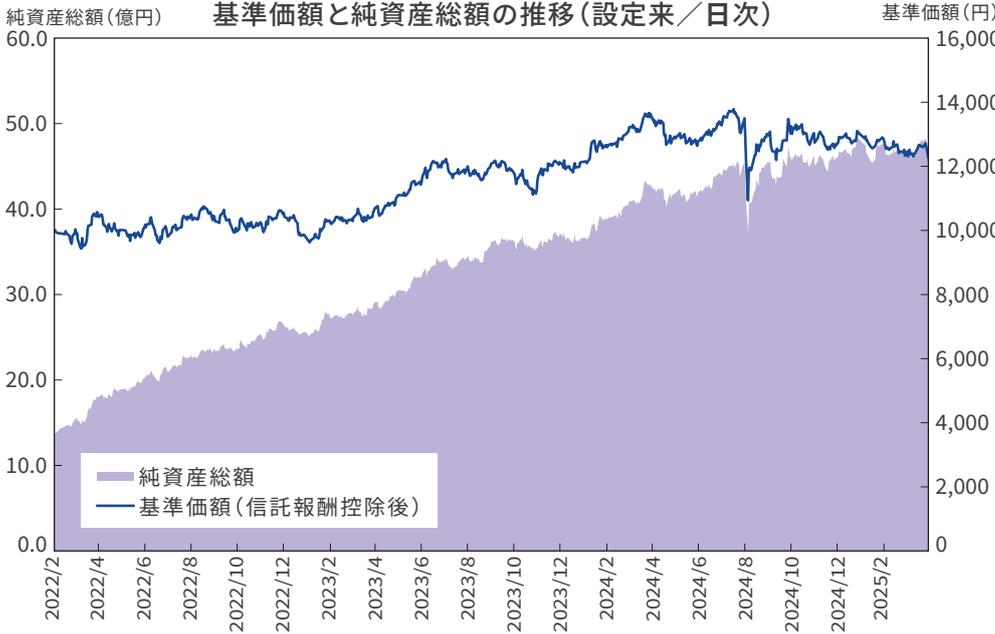
お客さま窓口：03-3988-8668 営業時間 9:00～17:00(土日祝日、年末年始を除く)

セゾン共創日本ファンド

作成基準日: 2025年4月30日

追加型投信 / 国内 / 株式 (分配金再投資専用)

【基準価額と純資産総額】(2025年4月30日現在)



基準価額

12,394円

純資産総額

48.6億円

【騰落率】(2025年4月30日現在)

期間	騰落率
1カ月	1.16%
6カ月	-4.95%
1年	-4.11%
3年	23.75%
設定来	23.94%

【資産別比率】(2025年3月31日現在)

資産	比率	資産	比率
株式	95.77%	短期金融資産等	4.23%

【業種別比率(11セクター)】(2025年3月31日現在)

No.	業種名	組入比率	No.	業種名	組入比率
1	一般消費財サービス	19.76%	7	金融	3.65%
2	情報技術	18.30%	8	不動産	2.58%
3	資本財・サービス	16.35%	9	コミュニケーション・サービス	0.00%
4	生活必需品	15.17%	10	公益事業	0.00%
5	素材	12.89%	11	エネルギー	0.00%
6	ヘルスケア	7.07%		合計	95.77%

【組入上位10銘柄(全銘柄数33)】(2025年3月31日現在)

No.	銘柄名	銘柄コード	上場市場	業種名	組入比率
1	五洋建設	1893	プライム市場	資本財・サービス	4.57%
2	ライフコーポレーション	8194	プライム市場	生活必需品	4.15%
3	ARTIENCE	4634	プライム市場	素材	3.81%
4	デンカ	4061	プライム市場	素材	3.79%
5	コメダホールディングス	3543	プライム市場	一般消費財サービス	3.78%
6	塩野義製薬	4507	プライム市場	ヘルスケア	3.75%
7	住友林業	1911	プライム市場	一般消費財サービス	3.74%
8	ヤマハ	7951	プライム市場	一般消費財サービス	3.74%
9	ANAホールディングス	9202	プライム市場	資本財・サービス	3.71%
10	伊藤園	2593	プライム市場	生活必需品	3.70%

※セクターは世界産業分類基準(GICS)を基に、Bloombergから取得したデータに基づいて分類しています。

銘柄紹介

会社名：ライフコーポレーション(銘柄コード 8194)

ライフコーポレーションは、近畿圏および首都圏にスーパーマーケット「ライフ」を展開する食品スーパーマーケット事業者です。戦後の混乱期に創業者・清水信次氏が食料品販売を開始したことを起点に、1961年にスーパーマーケット事業へ参入。以降、地域密着型のチェーン展開を進め、関西・関東の二大市場で着実な成長を遂げてきました。従来のスーパーマーケット店舗においては、購買力の高い首都圏を中心としたドミナント出店、プロセスセンターへの投資による経営効率化と品質の向上、ネットスーパー事業の拡大などに取り組み、経営基盤の強化を図ってきました。また、小売業で進行する同質化競争からの脱却を掲げ、ライフにしかない魅力的な商品の開発に取り組んできました。近年では「オーガニック・ローカル・ヘルシー・サステナビリティ」を重視したプライベートブランド「BIORAL」の展開を推進し、既存店舗内での商品拡充を進めるとともに、これらのコンセプトを軸とした小型専門店フォーマット「ビオラル」の出店にも注力しています。今後も、ライフにしかない魅力的な商品の拡充を進め、より高付加価値な市場を開拓することで、持続的な成長が期待されます。

4月の市場動向

株式

上旬は、日本銀行が発表した短観で、大企業製造業の景況感を示す指数が悪化し、景気の先行きに対する不透明感が広がりました。その後、トランプ米大統領が「相互関税」において、日本に対し24%の関税を課す方針を発表したことを受け、経済成長率の低下や企業収益の落ち込みへの警戒が広がり、株価は下落しました。中旬にかけては、相互関税を巡る交渉進展への期待が高まるなか、トランプ米大統領が中国を除く各国・地域に設定した上乗せ部分の適用を90日間停止すると発表し、株価は上昇しました。その後、スマートフォンや半導体製造装置が相互関税の対象から除外されたほか、トランプ米大統領の自動車メーカー支援措置検討の発言を受け、株価は上昇しました。下旬は、為替が対ドルで円安となり、米中貿易交渉の行方に楽観的な見方が広がり、株価は上昇しました。

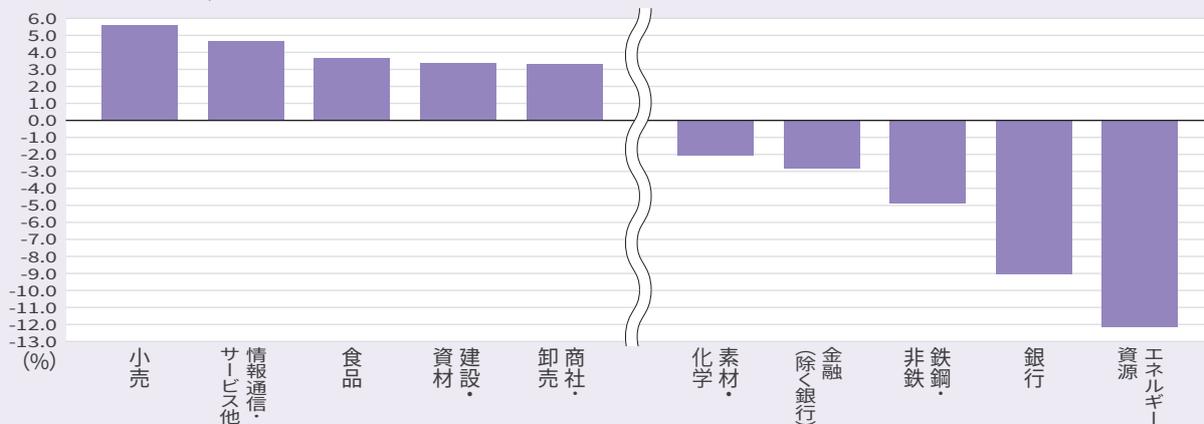
【主要指数の概況】

	騰落率
TOPIX[東証株価指数]	0.32%
日経平均株価	1.20%

【為替の概況】

	レート	騰落率
ドル(円)	143.1	-4.59%(円高)

【業種別騰落率(東証17業種※、上位・下位5業種)】



※東証17業種とは、東証業種別株価指数・TOPIX-17シリーズです。

商品解説動画などを公開中!



最新情報をチェック!



ファンドの特色

- ・特化型運用を行います。
徹底したボトムアップ・リサーチにより長期的に利益が成長する可能性を秘めた企業を厳選します。また、企業との対話を通して企業価値の向上を図り、さらなる超過リターンの実現を目指します。
 - ・日本企業との対話（エンゲージメント）を行います。
企業とお客さまを結ぶ長期的なパートナーとして、企業理念やビジネスモデルを深く理解することに努めます。必要に応じて多様な専門家とも協力しながら、企業統治の高度化と企業価値の向上に貢献することを目指します。
- ※市場動向やファンドの資金動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資信託ご購入時の注意

■投資信託は預金等や保険契約ではありません。また、預金保険の保護対象ではありません。加えて証券会社を通じて購入していない場合には、投資者保護基金制度が適用されません。■投資元本の保証はありません。投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合があります。■運用による損益は、すべてお客さまに帰属します。■投資信託は銘柄ごとに設定された信託報酬等の費用がかかります。■各投資信託のリスク、費用については投資信託説明書（交付目論見書）に詳しく記載されております。■お取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。

投資信託に関するリスクについて

◆基準価額の変動要因

当ファンドは、株式に直接投資を行うファンドであり、主として、国内の金融取引所に上場している株式に投資を行います。一般に、株式の価格は、個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、当ファンドはその影響を受けます。（「価格変動リスク」）また、当ファンドは、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は相対的に大きくなる可能性があります。（「集中投資リスク」）その他の当ファンドにおける基準価額の変動要因としては、「信用リスク」、「流動性リスク」などがあります。したがって、投資元本は保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものではありません。また、基準価額の下落により投資元本を割り込むことがあります。運用による損益は、すべてお客さまに帰属します。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※「自動けいぞく投資契約」に基づく収益分配金の再投資は、計算期間終了日（決算日）の基準価額をもって行います。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
信託期間	無期限（設定日：2022年2月1日）
決算日	毎年6月10日（休業日の場合は翌営業日） ※初回決算日は2022年6月10日。
収益分配	毎決算時（毎年6月10日の年1回。休業日の場合はその翌営業日。）に収益分配方針に基づき分配を行います。 ・委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。 ・当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、所得税、復興特別所得税および地方税を控除した後、再投資されます。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用があります。益金不算入制度は適用されません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドはNISAの成長投資枠（特定非課税管理勘定）の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求については制限を設ける場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。

投資信託に関する費用について

◆投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料：ありません。
- 信託財産留保額：換金申込受付日の基準価額に0.1%の率を乗じた額が控除されます。

◆投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用：ファンドの日々の純資産総額に年1.012%（税抜年0.92%）の率を乗じて得た額とします。
- その他費用：信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用（有価証券の売買の際に発生する手数料や、有価証券の保管に要する費用等を含む）、監査報酬（消費税含む）、立替金の利息等が信託財産の中から差し引かれます。なお、当該その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に計算方法、上限額等を示すことができません。
※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

委託会社、その他の関係法人

■委託会社：セゾン投信株式会社

ファンドの運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。

■受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンド財産の保管・管理・計算等を行います。

■販売会社：セゾン投信株式会社

ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。